

市民・事業者・行政が協働して環境先進都市を実現するひらかた環境ネットワーク会議会報誌

NO. 61  
春号  
平成 31 年  
(2019)

# 環境ひらかた



## 2019 ひらかた エコフォーラム開催しました



恒例の「ひらかたエコフォーラム」を2月2日に、メセナひらかた会館にて開催しました。

今回も昨年同様、大阪ガスさんの協力で“カーボンオフセット”での取り組みとしました。

昨年、エコフォーラムを午前・午後の2部制で実施したところ、好評だったため、今年も2部制で開催しました。午前の部は例年と同じく環境表彰と温暖化対策の取り組み報告を、そして午後の部は、「意外に知らないひらかたの環境 — 生物多様性にとんだまち枚方—」をテーマに、枚方に生育・生息している動植物についての報告をしました。

その後、報告を受けて7つのグループに分かれ話し合い、少し時間が短く物足りなかったものの充実した時間となりました。

### \*\*\*\*\* 総会のご案内 \*\*\*\*\*

2019年度通常総会を6月8日10時30分から、ひらかた環境ネットワーク会議設立15周年記念総会として開催します。ぜひご参加ください。(詳細はP6をご覧ください)



### \*\*\*\*\* 目次 \*\*\*\*\*

2019 エコフォーラム開催	P 1
フォーラム・環境ティールーム報告	P 2・3
各部会報告	P 4・5
お知らせコーナー	P 6
環境トピックス Vol. 27	P 7
<b>新コーナー</b> 環境ミニ知識	P 8

# ひらかた

# エコフォーラム

# 2019



## みんなで実感！枚方の環境

それぞれのグループでは、「環境の取り組みの輪を広げるにはまず知ってもらうことが大事」「外来種に対してどうすればいいのか、市として対応策を確立してほしい」「ごみ減量の取り組みも大事だよ」等々活発に意見が出されました。



## 環境講座【環境ティールーム】報告

昨年からスタートした環境講座の新メニュー「環境ティールーム」をご存知でしたか？  
親しい友人同士ではなかなか話題にし辛い「環境問題」。TVで見聞きしたり、毎日の暮らしの中で気になることを、気軽に話せる場として、実施してきました。



第1回目は「マイクロプラスチックって知ってる？」をテーマに、皆で話し合いました。

第2、第3回と情報コーナーでの話し合いでしたが、4回目は分別回収されたプラスチックごみの処理施設「かざぐるま」を見学しました



環境家計簿 我が家のエコノート 継続  
認定証を授与された方々です  
素敵な笑顔！



Cool Choice  
ひらかたみんな  
でエコ宣言の  
抽選に当選さ  
れた皆さんで  
す 嬉しそう！



この春のインターンシップ生  
関西大学1回生の大上航平君です

今回参加させていただいたインターンシップでは、14日間では得られないような経験を得ることが出来ました。企画の立案、会議への参加、どれも未知の体験で不安もありましたが、どれも温かく指導していただき今では自分自身の一つの力となりました。社会に出ていない内に一回生の間からこのような経験を積めることは、周りとの差別化を図れるとても良い時間となりました。今回のインターンシップで得た経験にさらに磨きをかけ、進化していこうと思います。



3月14日に、里山から環境を考えよう！と枚方市野外活動センターのある東部里山へ行ってきました。  
今年度はこれが最終でした。新年度は6月からスタートします。

第7回「体形維持でエコな暮らし」をテーマに、二つの関係を知り、皆で体形維持に効果的?な体操にチャレンジ





# 部会活動紹介

ひらかた環境ネット会議では、それぞれテーマごとに部会を結成し、主体的に活動を行っています。

## 環境教育部会

### 環境教育とアクティブラーニング

アクティブラーニングという言葉を目にしたことがありますか？ 従来型学習の、とすると受動的になってしまう学習方法でなく、生徒や児童が能動的に学ぶ学習方法のことです。具体的には教師による一方的な指導ではなく、体験学習やグループディスカッション、グループワーク、ディベート等を行うことで、自分で考える力・物事を動かす力・能動的に物事に取り組む力を育てようというものです。

当部会の出前授業では、以前からまさにこの“アクティブラーニング”と呼べる“授業という名の環境啓発活動”を実践しているのですが、部会メンバーそれぞれに、十分なスキルと経験があるのかと言えば決して十分とは言えないのが実態です。しかし、熱意と向上心を胸に持ち日々努力を重ねています。おかげさまで、徐々にではありますが出前授業の依頼のお声掛けも増えてくるようになりました。

さあ！新年度も頑張ります。ご期待ください！



## 自然エネルギー部会

### 枚方市民が肌で感じられる環境を！

再生可能エネルギーというものが、あまり普及していなかった 2000 年初め、「もっと知ってもらおう」「普及させよう」との思いで、2007 年市内で初めて、府下でも珍しい市民共同発電所を設置しました。

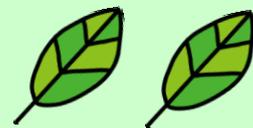
その後、2012 年 7 月 1 日に自然エネルギー発電固定価格買い取り制度が施行され、その追い風もあり、急速に普及してきました。しかし関西地域では、自然エネルギーイコール太陽光発電といったイメージで、他の自然エネルギーについてはあまり普及していません。

ところで、私たちのまち枚方が、市の環境基本計画の施策の一つに「地球温暖化対策の推進」として、「再生エネルギー等の導入促進」を掲げていますが皆さんはご存知でしょうか？

私たちの部会では、そうした施策を枚方市が掲げ、本気で導入促進を目指しているなら、市民がそのことを肌で感じられるようであればと考えています。そのため広く市民が目に来る場所にシンボルとして、ハイブリッド型発電機の設置ができないかと夢を膨らませているのです。夢を夢で終わらせないために一步一步活動を進めています。

応援してください！そして活動に加わってください。お待ちしております！





## まちづくり部会

### 住みよいまち枚方をめざして

まちづくり部会では、環境スターター講座でもあるウォーキングイベントを年二回行っています。市民の皆さんに変わりゆく枚方を知ってもらうことで、住みよい、住んでよかったと思えるまちづくりに活かしてもらうことが目標です。

歴史的文化遺産を学びつつ、災害で壊れたままの街並みや自然、衰退していく伝統文化の様子にも触れ、問題提起をしていきます。もちろん「昔」だけでなく「今」の枚方も知るために、新しい施設や町中の新しいシステムなども紹介していきます。ウォーキングを通じて変化の中にある枚方を知ってもらうことで、多くの市民の皆さんにまちづくりの「よりよい選択」を考えてもらえたら幸いです。また、しばらく中断していたフォトラリーですが、次年度は新しい内容で再開できたらと検討中です。

## 公共交通部会

### バス！のってスタンプラリー おすすめコースコンテスト～受賞作品が決まりました～

公共交通部会が毎年春と秋に開催している「バス！のってスタンプラリー」。このスタンプラリーに、広く市民の皆さんからアイデアを寄せてもらおうと「おすすめコースコンテスト」を実施しました。

応募期間は昨年8月1日から今年1月9日まででした。おすすめコースの条件として①駅が起点 ②バスに3回以上乗る ③1日で回れる ④目的地、もしくは目的地の最寄りのバス停が枚方市内であることの4つを設けていました。そのためか応募総数は14点と少なかったものの、ユニークなもの、完成度の高いもの、意表を突くもの等素晴らしいものでした。先ごろ厳正な審査が行われ、最優秀賞はじめ、優秀賞、市長賞など5つの賞、6人(敬称略)が表の通り選ばれました。

賞	受賞者	表 題
最優秀賞	縫村 修次	ひらかたどら焼き探訪
優秀賞	山内 康平	1日で回る枚方八景弾丸旅
優秀賞	末岡 由美子	大阪城の鬼門除け巡り in 枚方
市長賞	北西 諒介	2019年初もうでの旅
審査員長賞	内田 哲男	小学生の頃自転車で訪れた場所をバスで巡ってみた
京阪バス賞	植田 隆世	直Q京都停車バス停



授賞式は4月6日の「第26回 バス！のってスタンプラリー」の集合場所、岡東中央公園で行われます。(詳しくは当法人のwebページをご覧ください)



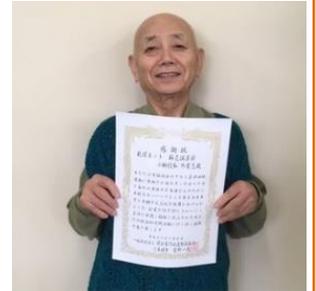
# お知らせコーナー

このコーナーの情報に関する申し込み、お問い合わせはひらかた環境ネットワーク会議事務局までご連絡ください。 ☎072-847-2286

## ◆◆◆ プルタブ回収の報告 ◆◆◆

### — 20年の頑張りが形に！—

アルミ缶飲料の開け口、いわゆる“プルタブ”を「集めると車椅子になる」という都市伝説のようなことを、一度は耳にされた方も多いのではないのでしょうか？  
そもそも過去にはこのプルタブは開けると缶から離れてしまい、それが道や公園等に落ちていたり捨てられたりして、怪我をする・動物が飲み込む等の危険があったため「公害を生み出さない人づくり」「空き缶散乱公害を無くす」ことを目的に始まりました。しかし、近年プルタブは缶から離れなくなるよう改良され、アルミ缶の回収率も高くなったこともあり、その役割を終えたともいえます。こうした背景はあるのですが、環境ネットワーク会議では市民の方々の環境保全取り組みの受け皿として、ペットボトルのキャップと共にその回収中間拠点としての役割を担ってきました。特にプルタブは会員の小柳佳弘さんが18年前から独自に取り組んでおられたのですが、ひらかた環境ネットワーク会議が回収中間拠点となってからは、情報コーナーに持ってこられるプルタブを（一社）環公害防止連絡協議会へ発送するという作業を担



っていたら、この度、目標の車椅子の寄贈を達成することができました。

尚、今後の取り組みについては現在継続するかどうか検討中ですが、当面は受け入れを継続していく予定です。

## \*\*\*\*\*スタンプラリー\*\*\*\*\*

第28回「バス！のってスタンプラリー —桜めぐり—」を下記の通り実施します。

日時：2019年4月6日(土) 8:30～ 岡東中央公園にて受付開始

参加費：」無料

参加賞：(株)ブルーミッシュのマドレーヌ、森下仁丹(株)の梅仁丹のど飴、  
(株)Mizkanのおむすび山のセットを500名様に

※その他お楽しみが盛りだくさん！ご参加お待ちしております。



## ◇◆◇◆◇総会のご案内◇◆◇◆◇

日時：6月8日(土) 10:30～ (受付開始：10:00～)

場所：環境保全研修室 (サプリ村野南館2階 環境情報コーナー隣)

詳細は後日ご案内を差し上げますが、予定の一つに入れていただきますようお願いいたします。今回は15周年記念として開催しますので、一人でも多くの皆様のご参加をお待ちしています。

私達を取り巻く環境は日々変化しています。最近の環境問題や、環境に関する事柄について「知ってほしい・知らせたい」情報などをこのコーナーで伝えていきます。今回は、3つ拾ってみました。

### ◆「気候を変えず私たちが変わろう」と・・・

2019年3月15日、地球温暖化対策の強化を各国政府に求める若者のデモが行われたというニュースを、みなさんも見聞きされたのではないだろうか。今回のデモはSNSなどで呼びかけ、世界120カ国2000か所以上で計画され、初めて世界一斉に行われた。

東京渋谷区では、国連大学前を約130人の学生たちが「気候を変えずに私たちが変わろう」などと書かれたプラカードをもってスタートした。

### ◆「古着」でジェット機が飛ぶ！？

環境に優しいエネルギー源として期待されている「バイオ燃料」で、ジェット機を飛ばそうという計画が進められている。この計画は日本航空がベンチャー企業2社と組んで進めているもので、古着の綿繊維を微生物で発酵・分解させ、ジェット機の燃料となるイソブタノールを製造し、2020年にこの燃料を使ってのフライトを目指しているという。

バイオ燃料と言えば、一般的にはとうもろこしやサトウキビなどの食用部分を原料に使うため、発展途上国などでの食糧不足を助長しかねないとの懸念も強く、世界の企業は食料供給を妨げないバイオ燃料の精製技術の開発でしのぎを削っているというが、今回日航が採用した技術は「地球環境産業技術研究機構」（京都府）が開発した、繊維分からバイオ燃料をより効率的に生成する技術だそうだ。

燃料や化学品は石油由来という、いわばそういった常識が変わろうとしている。バイオ原料とした燃料や化学製品が当たり前。今回の計画はそれが近い将来の現実と感じさせてくれるデモンストレーションと言えるのではないだろうか。

### ◆「30年までにプラごみ大幅削減を」が採択

プラスチックごみによる海洋汚染が大きな問題になっている。このページでも過去2回マイクロプラスチックの問題を取り上げてきた。そんな中、先ごろケニア・ナイロビで開催されていた第4回国連環境総会が、すべての国に対して2030年までに使い捨てプラスチックの大幅削減を求める閣僚宣言を採択して3月15日に閉幕した。

国連環境総会でプラスチックごみの海洋汚染対策が閣僚宣言に盛り込まれたのは初めてで、一定の評価はできるものの、具体的な削減目標数値はなく、日本が提案した作業部会の設置も見送られ、さらに直前でのアメリカの反対表明などもあり、6月に大阪で開催される主要20カ国・地域（G20）首脳会議を前に課題を残した。ちなみに、日本はG20首脳会議の議長国として、先進国と途上国がともにプラごみ対策に取り組むための支援の枠組み策定などを検討しているが、米国追随型の日本が果たしてどこまでできるのか不安は残る。

# 環境ミニ知識

新聞、テレビ、ニュースなどで見聞きするけれど、あまり知らない「言葉」や「現象」について少し知ってもらえたらいいな！と、ミニ知識を紹介するコーナーです。



## 「SDGs」って…？

最近ニュースなどでよく取り上げられていますね。Sustainable Development Goals 日本語では持続可能な開発目標と訳されています。開発の持続可能性確保に重点が置かれた 17 の国際目標のことです。ちなみにこの中身については、会報誌「環境ひらかた」の 2017 年夏号(第 54 号)環境トピックスで取り上げています。

## 「バイオ」ってそもそも…？

よく耳にしますね。バイオ〇〇〇、バイオ△△△、ではこのバイオってそもそもどういう意味なのでしょうね。バイオというのは「バイオロジー(生物学)」と「テクノロジー(技術)」の合成語で「バイオテクノロジー」の略です。バイオテクノロジーという言葉がなかった時代にも、実はバイオの技術(?)は使われていたんですよ。



## 「IPCC」よく耳にするけれど…

地球温暖化に関する科学的研究の収集及び整理を目的として設立された国際的な専門家が多数参加している政府間機構です。日本語では国連気候変動に関する政府間パネルと訳されていますが、Intergovernmental Panel on Climate Change の略です。

## ひとこと



先日、環境ティールームで穂谷の里山へ行ってきました。駐車場からえびこ道をのぼって野外活動センターへ。鶯の声を聞きながら、里山の現状や耕作放棄地、森林ボランティア竹取物語の会の方が整備されている竹林などを見ながら約 1 時間歩きました。

その後の参加者の方々との意見交換で聞かれたのが、「里山に所有者がいる」という当たり前の概念が欠落していた」ということ。距離的には近い里山ですが、「市街地に住む人と山の所有者との感覚的な距離はとて大きいんだな、まずはもっと足を運ぶことが大切かな」と感じました。

## ひらかた環境ネットワーク会議 会報「環境ひらかた」第61号

平成 31 年 4 月 1 日発行 (年 4 回発行)

発行：(特活) ひらかた環境ネットワーク会議



〒573-0042 大阪府枚方市村野西町5番1号

サプリ村野内(旧村野小学校)

電話 072-847-2286

FAX 072-807-7873

Eメール jimukyoku@hirakata-kankyou.net

ホームページ <http://www.hirakata-kankyou.net>

発行責任者：伊丹 均 編集責任者：丸井 晶子